

## 「勝ち」より「価値」

夏休みの44日間を皆さんはどのように過ごしたのでしょうか。きっと、勉強や部活動、クラブ活動などに文武両道で頑張ることができたのだと思います。部活動では、7月中旬から8月上旬に開催された学校総合体育大会・県大会に、本校から多くの部や個人が出場しました。県大会の上位に進出した部や個人もあります。〔水泳、ラグビー、女子バレー、体操、陸上、剣道、男子ソフトテニスの紹介〕。富士見中学校の活躍ぶりは目を見張るものがありました。それは、8月中旬に開催された関東大会でも同様です。水泳競技の男子4×100mメドレーリレーでは県大会に続き見事な優勝です。男子総合でも3位入賞を果たしました。女子バレーは、千葉や神奈川の代表チームに勝利をおさめ、ベスト8進出。全国大会の切符を獲得し、広島県で開催された大会では、地元広島県の代表に勝利するなどの活躍をみせてくれました。

関東や全国での活躍の一方で、本当にわずかな差で、関東大会出場を逃した部や個人もありました。体操女子団体や陸上女子円盤投げでは、3位までに入賞すると出場権を獲得することができます。しかし、ほんの数点、ほんの数cmの差での4位でした。また、剣道女子団体、ソフトテニス男子団体、ソフトテニス女子個人は、関東大会出場権をかけた代表決定戦に臨みましたが、もう一步のところまで届きませんでした。

「負けて悔いなし」という慣用的な表現がありますが、そう言い切るのは難しいことだと思っています。負ければ悔しいのに決まっています。ましてや、3年生の引退をかけた試合でもありますから、悔しいこと「この上なし」でしょう。「あの時、こうしていれば」という後悔だってあるはずです。ただ、「悔しさをバネにする」という慣用的表現もあります。今回の経験が、今後の人生の中で「喜び」をつかみ取るための「バネ」になるならば、とてもうれしいことです。

「悔しさをバネにする」ためには、大切な考え方があるようにも思います。「勝ち」にこだわることは当然ですし、「勝つ」という目的を持つことには意義があります。でも、勝ち続けることってそんなにないことだと思うのです。例えば運動部の大会では、全国大会で優勝するチーム以外は負けて終わりになってしまいます。これは、スポーツの世界だけのことではありませんよね。音楽や美術などのコンクールやコンテストなどでも同様です。何をもって「勝ち」とみなすのかが曖昧なものもたくさんあります。だから、勝つことだけではなく、（こっちの）「価値」にこだわる考え方をもっている必要があります。

部活動でも、クラブ活動でも、習い事でも、趣味でも、勉強でも、物事に取り組んでいるのは結果を求めるだけではありません。それらの活動を通して、「努力、継続すること」「仲間と力を合わせること」「ルールを守ること」「周りの人に感謝すること」などを学んでいるはずですよ。そういうことが、価値あることなのだと考えることが大切です。

「勝ち」より「価値」です。これから再開する学校生活の中の様々な場面にあてはめられる考え方です。前期後半も有意義な学校生活を送っていきましょう。